# TOKIO MARINE Topics (物流関連速報)

## 中欧州熱波による物流への影響

TOKIO MARINE GROUP
To Be a Good Company
東京海上日動火災保険株式会社
（2026 年 7 月 2 日）

各種報道の通り、西欧を中心に 2026 年 6 月下旬、一部地域で 40℃超に達する記録的熱波が発生しています。この熱波の影響で、河川の水位が低下し貨物輸送能力の低下や遅延が発生する可能性があります。本号では、現時点までの物流への影響を中心にお伝えいたします。

### 1. 現在確認されている影響

西欧を中心とした熱波の影響により、ライン川の水位が低下しています。当社の現地クレーム代理店を通じた情報によると、現時点では、内陸水運そのものは全体として継続されていますが、一部バージ船の運航会社では水深や航行区間の状況に応じて積載量を減らすなど運航上の調整が実施されていて、地域、船会社、その日の状況によって調整内容や程度は異なります。

2022 年に発生したライン川の干ばつの様子 写真 AP/アフロ

また陸上輸送においては、高温によるレール膨張や架線設備への影響から速度制限・運休が実施されており、ドイツ・ライプツィヒの路面電車では、液状化した目地材が分岐器やレールに流入・凝集し、ネットワーク全体のインフラが安全に走行できない状態として、路面電車の全線運行を当面停止すると発表するなど、人の移動にも影響が出始めています。

航空輸送においても、現時点で大規模な影響は確認されていませんが、高温環境下では空気密度の低下により航空機の離陸性能が低下し、空港・機材・滑走路条件によっては積載制限や遅延が生じる可能性があります。

### 2. 今後の見通しについて

今回の熱波は 6 月下旬をピークに、西欧の一部地域で気温低下が見込まれる一方、熱波の影響は中欧・東欧・南欧方面にも広がっており、地域によって状況は異なります。一方で、ライン川の水位は低下傾向が続いており、降雨不足が継続した場合、7 月以降も内陸水運における輸送制約が継続し、輸送能力の低下やコスト上昇が続く可能性があります。また、鉄道・道路・航空など複数の輸送モードに負荷がかかっており、複数の輸送モードで制約が重なった場合、特定地域・特定貨物を中心に、輸送手配の難化やリードタイム長期化が一定期間継続する可能性があります。

2018 年には欧州において同様に熱波および降雨不足を背景としたライン川の水位低下が発生し、一部区間で航行困難または停止に至るなど、内陸水運が大きく制約されました。その結果、輸送コストの上昇や輸送遅延の発生に加え、製造業における減産や供給遅延など、サプライチェーン全体への影響が顕在化した事例も確認されています。
現時点では、当時のような深刻な水準には至っていませんが、今後の降雨状況によっては同様の状況に近づく可能性もあり、引き続き注意が必要です。

※上記情報につきましては、あくまで現時点での状況をご報告するものです。最新情報を常にご確認いただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

【出典】ドイツ連邦水路・水運局（WSV） https://www.bafg.de

欧州航空安全機関（EASA） https://www.easa.europa.eu/en/domains/environment/eaer/aviation-adaptation-and-resilience-climate

Leipziger Verkehrsbetriebe https://www.l.de/verkehrsbetriebe

マリントピックス バックナンバー

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を払っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。